



そよ風



大阪市立大学
医学部附属病院

発行/大阪市立大学医学部附属病院 良質(QC)医療委員会
〒545-8586 大阪市阿倍野区旭町1丁目5番7号
TEL 06-6645-2711
http://www.med.osaka-cu.ac.jp/hosp/

2009年4月
第8号



Smile! / Service! / Science! 笑顔の大学病院を目指しています

楽しく学び、育つ、 笑顔の病院を目指して

—病院QCサークル活動のご紹介—

QCサークル活動って、知っていますか？

職場でご経験のある方もいらっしゃると思います。業務の効率を上げ、製品の品質を管理する職場活動のことです。元祖は日本の企業。海外の企業や病院からも注目を浴びている経営手法だそうです。日本の病院では、20年くらい前から盛んになってきて、毎年「医療の改善活動フォーラム」という全国大会が開かれています。

さてQCサークル活動というと、会社などご経験のある方は「管理が主体の堅い活動じゃないの？」と思われるのではないのでしょうか。ところが病院で行われているQCサークル活動は、ちょっと感じが違います。医師や看護師、薬剤師、検査技師、栄養士、事務職員たちが数名でサークルを作って、患者さんのために「よりよい医療を作ろう」と、あれこれ知恵を絞ってチャレンジできる、やりがいある活動なんです！

当院では、「患者さんの安全と安心」を担保するため、QCサークル活動を安全管理対策2本柱の1本に打ち立てました。それに呼応して、本良質(QC)医療委員会で昨年の秋からQCサークル活動に取り組み始め、3月に第1回目のQC大会を行いました。当日、会場は立ち見ができるくらい「よりよい医療を作りたい！」という病院職員の熱気でいっぱい。エントリーした16サークルから、厳しいオーディションを勝ち抜いた9サークルが激突しました。発表テーマは「物品の無駄な発注を減らす」「緊急

会場は、時に大爆笑が起ころほど、大変盛り上がりしました。



時の対応」「事故防止」「看護師の業務負担軽減」「子どもが怖がらないレントゲン撮影」「あいさつ運動」「備品のリサイクルやゴミ減らし」「詰所の整理整頓」と様々。どの発表も大阪のお笑い根性が炸裂して、会場には爆笑が絶えませんでした。病院QCサークル活動の大先輩であるPL病院の師長さん方にコメントもいただいて、4つのサークルが、金賞、銀賞(2サークル)、病院長特別賞に輝きました。



金賞・銀賞(2サークル)・病院長特別賞を受賞！



PL病院のQCアドバイザーにコメントをいただきました。職員懇親会の様子。

医療費削減やら、医療崩壊やら、何かと暗い話ばかりの医療業界ですが、QCサークル活動を通じて、「無駄を省いて業務改善すれば、サービス向上とやりがいを達成できる」と知りました。QCサークル活動を取り入れている大学病院は、(おそらく)日本に唯一！「笑顔の大学病院は、患者さんを日本一元気にする」と信じ、当院はこれからも「スマイル・サービス・サイエンス」の旗印の下、楽しく活動を続けていきますので、皆様、応援よろしくお祈りします！

(良質(QC)医療委員会 QC作業部会)

理念

私たちは、医学部建学の精神である「智・仁・勇」に基づき市民の健康に寄与する質の高い医療を提供します

こころ豊かで信頼される医療人を育成します

医療の進歩にたゆまぬ努力を続けます

(大学病院の) めざすところ 基本方針

- ・患者本位の安全で質の高い医療を提供します
- ・地域医療の向上に寄与します
- ・健康・予防医学を推進します
- ・最新の高度医療を提供します
- ・人間味豊かな優れた医療人を育成します
- ・新しい診断法・治療法・予防医学の開発を行います
- ・質の高い多彩な研究を推進します

安全管理対策室だより

～安全・安心で、みんな笑顔の病院づくり～

第3回 見守り、支える、安全対策 —院内パトロールの巻—



安全対策がうまくできているかどうか、どうやって点検するのでしょうか？ 当院では、院内の各部署が取り組んでいる様々な安全対策を点検するための取り組みとして、「院内パトロール」を実施しています。現在は次の四つのパトロールを行っています。

1. 医療安全対策パトロール

病院で取り決めた安全対策がちゃんと実行されているか、緊急時に対応できるように薬や機器が正しく保管されているか、病棟部門と外来部門、中央部門(検査室や手術室など)をまわって確認します。危なくて困っていることなど、スタッフの声にも耳を傾けます。

2. 呼吸器パトロール

人工呼吸器は、呼吸を助ける大切なもの。呼吸器パトロールでは、専門の臨床工学技士と認定看護師が呼吸器をつけている患者様をまわり、病棟スタッフに呼吸器を正しく使うための指導やアドバイスを行っています。



人工呼吸器の作動チェック中

3. ICT(感染対策チーム)ラウンド

院内で感染症が広がらないように、専任感染管理者の看護師と各部署の感染対策マネージャーがチームに分かれて巡回します。手は上手に洗えてる？ マスクやガウンはちゃんと着ている？ など、感染対策手順が守られているか、危ない箇所はないか、点検します。



環境チェック中

4. 褥瘡(じよくそう)回診

褥瘡(じよくそう)とは床ずれのこと。ベッドから動けない患者様は褥瘡がしやすいのです。また褥瘡ができていない患者様には、きめ細やかなケアも必要。そこで褥瘡管理専門の看護師が中心となって、週1回病棟を回ります。褥瘡の予防と行き届いたケアをお届けできるよう、頑張っています。



褥瘡有無のチェック中

このように安全管理対策室では様々な院内パトロールを行って、皆様の安全を見守り、病院スタッフの安全対策を支えています。もし、入院中に院内パトロールに出会ったら、ご協力、よろしくお祈りします！

診療科紹介 消化器内科

消化器内科学
病院講師 十河 光栄

主に食道から胃・十二指腸、小腸、大腸疾患の診療を担っております。特に食道・胃静脈瘤、逆流性食道炎、消化管機能障害、小腸疾患、炎症性腸疾患などに関しては他の病院では治療困難な症例に対しても積極的に取り組み、良い成績を得ています。当科を表現するのに特徴的なものとして、上部・下部消化管内視鏡などの内視鏡検査が挙げられます。内視鏡センターでは24時間の緊急受け入れ体制を取っており、消化管出血に対しての止血も従来より積極的に行う一方で、早期食道癌・胃癌・大腸癌に対して内視鏡的粘膜剥離術など先進的な治療も行っています。最近では、ダブルバルーンおよびシングルバルーン小腸内視鏡検査や、カプセル内視鏡検査を行う、本邦でも有数の施設であり、世界的にも評価されております。今回、同時に紹介されております肝胆膵内科学とは、取り扱う疾患上の性質からも密接に関わっており、お互いに協力しながら、診療を行っています。

医局員は基本的な知識や技術に加え、さらに自分自身の得意分野を持ち、日々研鑽し臨床へのフィードバックに励んでいます。それは内外での論文報告・学会発表での多数の業績が示しています。今後もより良い



10階東病棟にて

医療を目指し努力して参りますのでよろしく願います。

診療科紹介 肝胆膵内科

肝胆膵病態内科学
准教授 田守 昭博

当科は、消化器疾患の中で肝臓、胆道(胆のうを含む)、膵臓の病気を専門に診療するべく2007年1月に開設されました。診療部長の河田教授を中心に、スタッフ7名と研究医5名さらに大学院生4名を加え、一丸となって診療にあたっています。患者さんの内訳は慢性肝疾患が多く、病棟(10階東)には肝がんの患者さんが多数入院され、エコーや腹腔鏡下に癌の局所治療を受けられています。ウイルス性肝炎では約90名の患者さんがインターフェロン治療に通院されています。

昨年、当院は大阪府の肝疾患診療連携拠点病院に指定され当科を窓口にして近隣の医療機関との病診連携を図るとともに、医事運営課の協力のもと肝疾患相談支援センターを開設しました。当科では、より良い医療を提供するため食道・胃静脈瘤は消化器内科との、肝がん・膵がんは放射線科・肝胆膵外科・腫瘍外科との連携にて治療を進めています。当科独自には、造影超音波検査による肝内腫瘍の診断やファイブロスキャンによる肝線維化の評価など非侵襲的な検査にも取り組んでいます。最近ではメタボリック症候群の増加に伴い脂肪肝炎の患者さんが増え、新たな肝臓病として診療しています。

今後とも、肝胆膵疾患の克服のため努力して参りますのでよろしく願います。



肝胆膵内科のドクターや補助員の胸に輝くバッジ。



病棟カンファレンスの風景

がん看護専門看護師について



専門看護師(英CNS: Certified Nurse Specialist)とは、より質の高い看護を提供するための知識や技術を備え卓越した看護実践能力を有する看護師のことをいい、日本看護協会専門看護師認定試験に合格しなければなりません。がん領域においては全国で128名が活動しています。

2007年にがん対策基本法が成立し、がん医療において治療法がめざましく進歩したので、がんと共に生きる人は増えています。治療の副作用による身体の苦痛、再発への不安、次の治療法の選択などに苦しんだり、症状で生活の中で困っていることや不安を、患者様が一人で抱え込んだりしていることがあるかと思えます。またご家族の方も、患者様にどのように寄り添っていったらよいのかと苦しむことがあります。がん看護専門看護師は、そのような患者様やご家族の方に、症状を調整するための力を高めること、意思決定のサポートや心理的なサポートを行っています。

現在、医師・薬剤師・ソーシャルワーカー・リハビリなどの多職種と一緒に診療科を越えて病院を横断的に活動する緩和ケアチームと、造血幹細胞移植サポートチームに所属しています。治療開始と同時に患者様・ご家族様がもつ苦痛な症状や心の問題へのケアに取り組んでいます。どんなことでも気軽に相談していただけたいと思います。

ベッドサイドで患者様の相談に応じています。



患者様の権利

- ・安全で質の高い医療を受ける権利があります
- ・自由意志に基づき治療を選択する権利があります
- ・十分な説明と情報提供を受ける権利があります
- ・セカンドオピニオンを希望される場合は、紹介を受ける権利があります
- ・人の尊厳を尊重した医療を受ける権利があります
- ・医療に関する個人情報やプライバシーが保護される権利があります
- ・健康教育を受ける権利があります

患者の皆様へのお願い

- ・あなたの健康に関する情報は、できる限り正確にお伝えください
- ・病院スタッフの説明がわかりにくい場合は、納得できるまでお聞きください
- ・診療上必要な指示や助言は、お守りください
- ・他の患者様の権利を尊重し、迷惑がかかることのないようにご配慮をお願いします
- ・治験・臨床試験に、ご協力をお願いします
- ・大学病院の責務である医療人の育成と研究に、ご理解とご協力をお願いします

病院ボランティアを募集しています！！

◆活動内容◆

- ・外来を中心とした患者さまへの院内案内
 - ・車椅子をお使いの患者さまやお身体の不自由な患者さまの移動介助
 - ・その他
- ※活動内容に関するアイデアにつきましても、今後考えていきたいと思っています。

◆お問合せ先◆

〒545-8586 大阪市阿倍野区旭町1-5-7
大阪市立大学医学部附属病院
ボランティアルーム
TEL/FAX: 06-6645-2694
E-mail: volunteer@med.osaka-cu.ac.jp
★外来でオリジナルエプロンを着用しているスタッフにお声掛けください。

大阪市立大学医学部附属病院の概要

所在地 〒545-8586 大阪市阿倍野区旭町1丁目5番7号 初診受付時間 午前9時～午前10時30分
電話 (06)6645-2121 (代表) 休診日 土・日・祝日、12月29日～1月3日

診療科

総合診療センター、循環器内科、呼吸器内科、膠原病内科、生活習慣病・糖尿病センター、腎臓内科、骨・リウマチ内科、消化器内科、肝胆膵内科、小児科・新生児科、神経精神科、皮膚科、放射線科、放射線治療科、核医学科、消化器外科、乳腺・内分泌外科、肝胆膵外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、脳神経外科、整形外科、リハビリテーション科、泌尿器科、女性診療科(産婦人科)、眼科、耳鼻いんこう科、麻酔科・ペインクリニック科、形成外科、血液内科・造血細胞移植科、老年科、神経内科

※本院は、専門医療を中心に医療を提供していますので、受診するには原則、診療情報提供書(紹介状)が必要です。

